ハンド県中学春季選手権

ハンドボールの第３回大伸杯第52回県中学生春季選手権大会は27日、八重瀬町の東風平運動公園体育館で男女決勝までを行った。女子の沖縄東は仲西を31―23で破り、初優勝を飾った。男子神森は安慶田を36―20で下し、２年連続19度目の頂点に立った。

【男子】
▽準決勝
神森 39―31 安慶田
▽3位決定戦
浦添 33―26 安慶田
▽決勝
神森 36―20 安慶田

【女子】
▽準決勝
仲西 28―21 沖縄東
沖縄東 20―15 浦添
▽3位決定戦
浦添 24―17 仲西
▽決勝
沖縄東 31―23 仲西

沖縄東 女子初優勝

堅守でエース封じ猛攻

沖縄東―仲西　後半、中央から突破を図りファウルをもらう沖縄東の松川桜和音＝27日、八重瀬町の東風平体育館（大城直也撮影）

ヒロイン

これまで一度も勝てなかった。沖縄東の決勝の相手は幾度も敗北を喫した仲西。しかしこの日は、CBを封じて猛攻へとつなげ、一度もリードを許さず初優勝をつかみとった。

序盤から主導権を握った。重圧をかけてミスを誘い、パスカットから縦につないで速攻を決めた。7メートインと45度の伊良波奈々のロングシュートを中心に攻撃を展開。堅守で相手エリアでボールを押し込み1点スローを決めきれずとも、リバウンドを押し込み1点への執念も光った。

16―12で折り返した後半、パスカットから単独速攻を許して一瞬、流れを渡しかけた。それでもチームは一線守備をチームのパスワークでかき回し、ノーマークのサイドもゴールへとねじ込んだ。

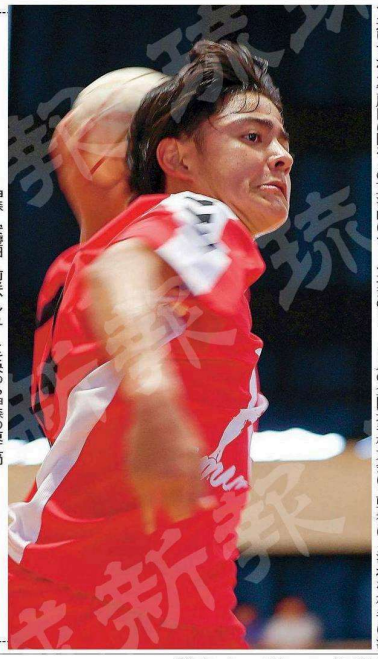
平良徳彦監督は「子どもたちが自分で役割を判断してプレーした結果だ」と勝因を語る。松川は主将として「仲西もさらに強くなるので、その上のプレーで勝って全国へ行く」と夏を見据える。チーム最多得点を挙げた伊良波は「みんな盛り上がって雰囲気良く戦えた。このまま全国優勝を目指したい」と自信をつかんだ様子だった。（名波一樹）

初優勝を喜ぶ沖縄東の選手ら

２年連続19回目の頂点に立った神森のメンバー

神森（男子）連覇 19度目頂点

東江尚、チーム最多8得点躍動



神森―安慶田　前半、シュートを決める神森の東江尚

○…神森は高火力の攻撃で追いすがる安慶田に隙を与えず圧勝した。右サイドの東江尚はチーム最多の8得点を挙げ躍動した。

3月の全国選手権大会は2回戦で惜敗。主将の金城藍希は「流れを相手に渡し、ミスが続いた」と敗因を語る。今大会決勝は、順調な滑り出しで点を重ねた。防御から速攻へ、決まらなければセットプレーと手を緩めない。ジャンプシュートを強化してきた東江は、相手GKの頭上を抜くシュートで点を奪うなど練習の成果も発揮。ミスも少なく、流れのままに勝ちきった。

2022年に全国大会で頂点に立った神森。東江は「シュートの精度をもっと上げて、自分が全国1位へと引っ張る」と王座奪還へ闘志を燃やした。（名波一樹）

ⓒ琉球新報　無断での転載、改変、複製、頒布を禁止します